

富山県子育て支援・少子化対策県民会議 第3回基本計画策定部会

1 日時 平成26年10月6日(月)10:00~11:30

2 場所 高志会館 麗花

3 議事 基本計画の中間報告案について

4 委員発言

<A委員>

・正規雇用率や共働き率が高いと、出生率が高くなる傾向にある。富山県は若年者の正規雇用率はトップクラスで、共働き率も高いが、出生率は高いほうではない。この理由を考える必要がある。

・県内には大学が少なく、子どもに高等教育を受けさせようとする、どうしても県外でとなるので、子育てコストが高くなる。コストの引き下げ等を考えないといけない。

<B委員>

・実際にご結婚されている方の出生率は、高い数字だと思うが、結婚されない方が非常に多いので、1.4という出生率になるのだと思う。

・来年3月14日に新幹線も開通するので、夫婦で富山県に移住してもらえるような働きかけを行えば、人口増、出生数増へつながると思う。

・富山県は教育県だが、幼稚園の就園率は現在3割を切っている。

・教育にかかる経費は非常に多いので、それに対する援助をすることで、教育の充実や富山県への移住にもつながるのではないかと思う。保護者の負担を軽減することが大切。

<C委員>

・お母さん方の年齢が上がってきており、その中で、2人以上の子どもを持つことは、年齢的にも難しいのかなと日頃感じている。

・3人目以上についてはいろんな支援はあるが、1人目を産んで辛いと2人目は産まない。

1人目から子育てしやすいような状況を作ることが必要。

・早く結婚して、お子さんを作って欲しいというのが私たちの願い。

・婚活でどんどん独身者が出会ってみなさん結婚していただけたらと思う。

<E委員>

・目標について、数値化してもらおうと動きやすくなる。自分たちの現状を見直すきっかけにもなるので、是非なんらかのものを作っていただきたい。一つの明るい目標として考えていただきたい。

・人口減少という問題は企業経営において避けられない問題。

・女性社員に対する仕事と生活の両立等に関する意識調査を実施した結果、「企業に必要な取組みにはどのようなものがあると考えますか」の問いに、①育児、介護休暇を取りやすく、復帰しやすい仕組みづくり、②年次有給休暇を取得しやすい職場づくり、③育児・介護で仕事を休んでも不利にならない人事評価制度がベスト3となり、これは3年間同じである。

・「行政に必要な取組みにはどのようなものがあると考えますか」という問いには、①育児や介護の施設サービスの充実、②雇用確保など女性・高齢者等の多様な働き方に対する支援の

回答が多い。

・「管理的部門等への女性の登用が未だに少ないと感じていますか」という問いに対し、そう思うと答えた割合が年々上がっており、働いている方も意識を持っていただいているのかなと思う。

・働いて子育てもしてという中で、仕事のやりがいは大事だと思う。

・仕事が終わる時間まで学童保育が利用可能になるようにしてもらいたい。

< F 委員 >

・合計特殊出生率を目標とすることは、女性の立場として非常にデリケートで、押し付けられると怖いものを感じる。希望出生率については賛成。

・進学等によって県外に若者が出て行くことは、親としても子としても止められないと思う。無理に県内に止めておくことは数値目標としては難しい。

・富山県の大学が国際的にも非常に評価されるとか、ある専門の特殊な分野で特色ある教育を受けることができるとかであれば、県外からも逆に来てもらえると思う。

・首都圏以外にも県出身者のための寮があればいいと思う。

・病児・病後児保育は思ったほど利用されていないと聞くので、企業などで、子どものための病後病児の休暇だけでなく、例えば祖父母の方でも孫をみる場合の休暇制度があればいいと思う。

< G 委員 >

・出生数、合計特殊出生率の目標指標についても、子育てということ全体においても、女性ばかりがクローズアップされ、男性の意見があまり見えてこない。女性にばかり目が向けられがちだが、男性が自分のこととして考えられるような、何かが必要。

・発達障害の子に対する早期支援の充実が盛り込まれているが、受け皿があまり整っていない。もう1歩踏み込んでいただきたい。

・少子化対策は、短期的な話も必要だが、もっと長いスパンで見えていかないといけない。

・親学びプロジェクトで、家庭を持つことの素晴らしさや、子どもをもつことの良さを話し合えるような題材を作り、子どもたちに家庭を持つことはいいことなんだという意識づけができればいいと思う。

・短期的な目標と長期的な目標と兼ね合わせて考えていくべき。

< H 委員 >

・誰の視点で、政策や目標値を立てるのかという、基本スタンスを整理することが大事。

・体系上、役割分担や連携の仕方等を区切ることは非常に分かりやすいが、現場ではほとんどの施策を一緒にやらないといけないので、報告を作り上げるときに整理してほしい。

・経済的な格差、負担感の問題について、県全体としての底上げを図ってほしい。保育料の支援等市町村が独自の判断でいろいろ行っており、アンバランスが生じているので、県全体の基準を示してほしい。

・婚活についての情報が一元化されるよう取り組んでほしい。

・放課後児童クラブの対象年齢が拡大するが、指導員の量的な確保と質的なアップに現場は

苦慮している。県全体できめ細かな研修会の実施や人材バンク的なものの拡大、拡充をしてほしい。

< I 委員 >

- ・ 20代はじめに結婚された方は2人、3人子どもを産んでいる方が多い。企業の中でも出会いの場を設けたり、そういう場を増やしてほしい。
- ・ 20代前半の方は将来管理職になりたい等モチベーションが高いが、結婚・出産・育児を迎えると、やはり不安があるという。企業でもいろいろ制度を設けているが、県や市町村でもキャリアビジョンを考える機会を設けてほしい。
- ・ 学童保育は地域によって格差がないようにしてほしい。

< J 委員 >

- ・ 合計特殊出生率を目標とすることは抵抗がある。希望出生率であれば受け入れられるのではないか。ただし、同時に男性の育児休業取得率等の目標も一緒に示していく必要がある。
- ・ 勤務している大学病院では、毎年県外からUターン就職する率が毎年上がっているが、逆に学生に占める富山県出身者の割合が年々下がっている。
- ・ 学生から見ると、大学が1校よりは2校3校あったほうが進路の選択肢が増えるので、看護に関わらず、大学の設置についてご検討いただきたい。
- ・ 働く女性の子育てに関しては、おじいちゃんおばあちゃんを当てにすると成り立たないので、病院の中で病児病後児保育を充実させていくしかないと考えている。
- ・ 公衆衛生分野に助産師職能をご活用いただくとともに、人事交流もお願いしたい。
- ・ 大学で幼稚園の先生から若い女性に対し子育てについて話をしてもらっているが、非常に成果をあげており、今後も続けていきたい。

< M 委員 >

- ・ 県内の大学にぜひ進学して欲しいが、富山県は大学が少ない。
- ・ 色々な施策があるが、効果を発揮するパッケージみたいなものを、ライフスタイルにおいて提案できるといい。
- ・ 県外流出は止められないと思っていたが、富山県はUターン率も非常に高いので、帰ってきた際の特典など、色々なものを組み合わせて提示していくことはできると思う。
- ・ 新幹線開業によって人口流動が激しくなると予測されるときに、都会とはちがった魅力（子育てのしやすさや、教育の質、コストの問題等）を富山県の魅力として必要なニーズを踏まえながら打ち出しをしていく必要がある。
- ・ 合計特殊出生率を目標とすることは、ちょっとデリケートなので、希望出生率を掲げていくとか、早く結婚したい人、子どもがたくさん欲しい人には少し人生設計を早めに立ててもらい、本当はほしかったのにとということにならないようにしないといけない。
- ・ 男性にももっと意欲的に仕事と子育て、育児等を、バランスをとって考えてもらえるように、富山県独特の家庭観、子育て観にもちょっとメスを入れる必要がある。
- ・ 新幹線で子育てを富山にしに来る、移住しにくるみたいアピールができればいいと思う。

<Kオブザーバー>

・保護者が、小学校の子どもたちへの教育に対しての不安感や負担感があまり大きくならないように、学校としてどうしたら保護者に寄り添う形で連携協力を強めていけるかしっかりと考えていかなければいけない。

<Lオブザーバー>

- ・若者の県外流出については、男女で大きな差があるのではないかなと思う。
- ・新幹線開業が進学にどういうふうに影響していくか心配している。
- ・子育てに関する経済的負担について、富山県が個別に支援をするという宣伝をすれば魅力が増えるのではないかなと思う。